

NOOVÉ
HAUS

No 10

Original Report

Builder /
kigumi studio

Note /
北信地区 N邸
家族構成 4人



使うほどに心地よさが増し、暮らしに自然と馴染んでいく——

kigumi studio の手がける「NOOVÉ HAUS」は
美しさと機能性を兼ね備えた長く愛せる高性能住宅。
毎日の料理を支えるル・クルーゼの鍋のように
時を重ねるほどに愛着の深まる住まいが誕生しました。

VE HAUS は、美しい陰影と柔らかな色彩を取り入れたスタイリッシュなデザインと、型にはまらない柔軟な設計で、それぞれのライフスタイルに応じた快適な空間を提案します。

たとえばこちらのN邸は、玄関とリビングが直結した二世帯住宅になっていきます。奥行きのある細長い敷地形状で、道路から玄関まで長いインターバルがあることから、この設計が実現しました。外からの視線が届かない工夫により、この間取りでもカーテンはいらないそう。

さらに、玄関スペースを最小限の広さに抑え、玄関ホールを割愛したことで、最も大切にしたい家族の憩いの空間を広げることができたといえます。

「リビングは家族の居場所。せっかくの土地を有効に活用しなければもったいない」というのが、代表の大野晴信さんの考え方です。リビングの上部にはハイサイドライトが設けられており、奥まった造りでも光がたっぷり入ります。これにより、家族の憧れだった吹き抜けのリビングは、いっそう開放的な空間となりました。

また、玄関とリビングの間を仕切るドアはありませんが、断

熱・気密性能に優れているので、外気の影響を受けにくく、一年中快適に過ごすことができます。

N邸でもう一つ特徴的なのは、横に長い土間を玄関スペースに採用しているということ。土間の奥はトイレや浴室、洗面所などが並ぶ廊下に続いていて、回遊式の動線になっています。

これは、「家事負担の少ない間取り」という奥様のリクエストと、「快適な二世帯住宅」というN邸のメインテーマに対するアンサーでもありました。

生活リズムの異なるお母様と息子さん家族が、互いにストレスなく暮らせる二世帯住宅とは？ たどり着いたのが、「半二世帯住宅」という暮らし方です。

正面から見ると手前に飛び出している離れのような空間がお母様の居室。「外が見たい」というお母様のリクエストに応えつつ、プライバシーを保てるようにもなっています。居室にはお母様専用のキッチンを備えていますが、独立した造りになっていないので、音やにおいが互いの生活空間に漏れることもありません。トイレや浴室などは共用ですが、リビングを通らずに行くことができます。ほとんどよい距離感を保つことができます。

暖かくて、美しい
暮らすほどに愛着が深まる
上質な住まい

kigumi studio 大野晴信さん

圧倒的な断熱性能と美しいデザインを兼ね備えた住まいを理想の価格で実現。エネルギー性能が高い高性能住宅を得意とする。

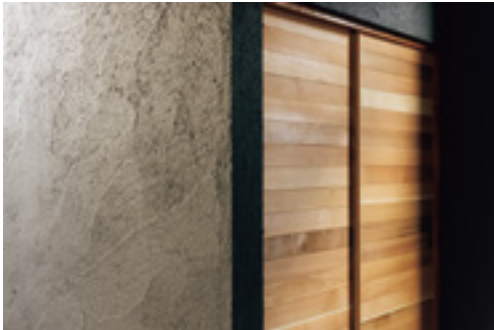


住宅の性能を「燃費」という概念で捉えたことはありませんか。車を選ぶときには決め手にもなるほど重要な要素なのに、家の燃費となるとどうでしょう。生活に欠かせない電気も、空調も、給湯も、調理も、すべてエネルギーを使うのですから、住宅のエネルギー効率に目を向けることは、とても大切なことのはず。ましてや家は、車の何倍も長く使い続けるオーダーメイド品。

なおさら軽視はできません。建築設計アトリエ、kigumi studio が手掛ける「NOOVE HAUS（ノーズエハウス）」は、断熱性能と省エネルギー性能を最重要視した高性能住宅ブランドです。世界最高基準の「G3断熱性能」を超える建物が、上質で豊かな暮らしを叶えます。

一生ものの道具だからこそ、機能性はもちろん、デザインや個性も大切にしたいもの。NOO





A_生活動線を考え抜いた間取り。玄関からキッチンに続く廊下の左側には浴室とランドリー、右側にはトイレと洗面カウンターが並んでいて、家事の負担が軽減される動線になっている。 **B**_ダイニングの天井は羽目板張り。造作のダイニングテーブルはキッチンと一体化させてあるので、「配膳や片付けがしやすい」と奥様も嬉しそう。キッチンはメーカー製品を上手に活用しながらカスタマイズすることで、コストを抑えつつもオーダーメイドキッチンのような高級感のある空間に仕立てた。 **C**_ダイニングに設けた造作のワークカウンターは娘さんの特等席。食事をつくりながら、宿題に取り組む姿に目を配ることができる。 **D**_内装はクロスではなく塗り壁を採用。光の反射がやわらかいので、目にもやさしい。 **E**_ワラを混ぜ込んで風合いを出した外壁。 **F**_坪庭の植栽がシルエットとなって映り込む様子にも風情がある。 **G**_左手前の部分がお母様の居室。外の景色がよく見える。



2つの生活スペースの緩衝地帯にあるのが、エントランス脇に設けられた坪庭。この空間があることで、互いの視線を和らげつつ、緑による癒し効果も得られるようになっていきます。坪庭にはアッパライイトが配されているため、陽が傾く頃になると、風にそよぐ枝や葉のシルエットがガラス越しに浮かび上がり、非日常的な雰囲気。灯りに照らされて陰影を纏ったファサードもまた、ご主人のお気に入りの光景で、仕事を終

えて帰ってくるたびに心が躍るといい、「何度見ても、飽きません」。高性能でありながら使い心地がよく、暮らしにそっとなじむNOOVÉ HAUSの家。四季を通じて温もりを閉じ込め、使い込むほどに愛着が増していく住まいは、生活の幸福度を上げてくれる品質の良いキッチンウェアブランド、ル・クルーゼのよう。心地よくて頼もしい「家」という道具が、家族みんなの日常を豊かなものになっています。

